

THE 4TH INTERNATIONAL STUDENT SEMINAR

第4回 国際学生セミナー

—アジアの平和と開発 PEACE AND DEVELOPMENT IN ASIA—

新しいアジア像を求めて
IN SEARCH OF A NEW SELF-IDENTITY AS ASIANS

主催 財団法人大学セミナー・ハウス
INTER-UNIVERSITY SEMINAR HOUSE, INC.

第2次大戦後4半世紀を経た1970年代の世界には、従来の国際政治の枠組ではとらえきれない歴史的変動が訪れた。米中接近、中国の国連参加、日中国交、ベトナム和平、中ソ対立の激化などの諸要因が、このような歴史的変動を相乗的に促進してきたのであった。そして現在、資源・エネルギー、食糧、人口、海洋権といった人類の生存にとっても原生的かつ根本的な課題が、70年代後半の国際政治の規定的要因になろうとしている。

こうした国際環境のなかで、アジアの情勢は依然として流動的であり、国民形成と経済開発という共通の課題に直面している多くのアジア諸国の苦悩はさらに増大しているともいえる。

そのようなとき、アジアのなかで唯一の高度産業国家である日本の存在とその役割は、私たちがそれを意識するとしなやかにかかわらず、いまやきわめて大きなものになっている。最近の東南アジアや韓国における反日感情の激発は日本の存在と役割の大きさの逆証明でもあり、それだけに私たち自身のアジア認識についても再検討すべき数多くの問題を提起した。だが、ひるがえって私たちは、どれほどまでにリアルなアジア認識を共同しているであろうか。図式的・観念的な構図のなかにアジアの現実を恣意的にはめこもうとしすぎていることはないか。米中接近、ベトナム和平、日中国交といった、しばしばセンセーショナルに喧伝されるグローバルなレベルでの認識にのみはしりすぎて、アジア諸国に共通なリージョナルなレベルでの諸問題、そして、アジア諸国のそれぞれに異なり錯綜したローカルなレベルでのドロドロした現実、つまり諸国民の体臭をも組み込んだ歴史と現実を、どの程度までアジア認識の基礎に据えているのであろうか。

「アジアの平和と開発」を主題とする国際学生セミナーは、アジアや諸外国の留学生諸君と起居をともしながら語り、かつ考えるというユニークな国際交流の場として、すでに多くの成果を収めてきた。今回は第1回「日本の技術：その歴史的社会的性格」、第2回「新しい国際環境のなかで」、第3回「日本を考える」にひきつづき、「新しいアジア像を求めて」をテーマに開催し、参加者相互の人間の接触をも深めながら、私たちのアジア認識をより着実なものにしてゆきたいと思う。学生諸君の積極的かつ建設的な参加を期待している。

- 期 日 昭和49年12月12～15日（木～日の3泊4日）
- 場 所 大学セミナー・ハウス（八王子市下柚木 TEL 0426-76-8511）
- 参加対象 国公立大学に在学するアジア地域を主とした留学生と日本人学生

◆ ゲスト講演

アジア諸社会の特質と共通性

A Cross-Cultural Interpretation of Societies in Asia

東京大学教授 中根 千枝
NAKANE Chie, The University of Tokyo

アジアを理解する一つの重要なアプローチとして、社会的・文化的にアジア諸社会（とくに東アジア、東南アジア、南アジア地域）はどのように位置づけられるのか、という問題を扱う。社会のなりたち、価値観、家族制度、集団構成などについて比較を試みる予定。

◆ 講演とセッション演習

A 東南アジア ——歴史と風土と心理——

South-East Asia —Its History, Climate and People's Personality

京都精華短期大学学長

深作光貞

FUKASAKU Mitsusada, Kyoto Seika College

一口に“東南アジア”といっても、多種多様に、歴史・文化・宗教などがモザイクのように、より集り並んで、できている地域である。それを、どのように整理し、理解するか——。この本質的基本問題から始めてゆきたい。そして、相互理解にまで、発展させたい。

▶参考文献 深作光貞著「反文明の世界」 三一書房 850円

B 東南アジア社会と発展

Society in South-East Asia and Its Development

東京外国語大学教授

田中忠治

TANAKA Chuji, Tokyo University of Foreign Studies

最近、東南アジアにおける反日気運の盛り上がりから、我が国のこの地域への協力、援助のあり方が、政、財界を通じて真剣に議論されるようになってきている。この時期にあたり、先進国による援助、協力が、東南アジア社会の発展とどのような係り合いを持っているのか？東南アジア社会個有のダイナミズムを考察し、検討してみたい。

C アジア諸国と日本との経済関係

Economic Relations between Asian Countries and Japan

名古屋大学助教授

飯田経夫

IIDA Tsuneo, Nagoya University

近年、アジア諸国と日本との経済関係が深まり、それに関連して、アジア諸国からの日本批判が高まっている。この問題には多くの側面が含まれ、けっして単純ではない。とくに、日本人・日本企業の「お行儀」の悪さの問題だけだとはとうてい思われぬ。そのことを冷静に考え、将来のあるべき方向を探してみたい。

▶テキスト 飯田経夫著「援助する国される国」 日本経済新聞社 400円

D アジアの国際関係 ——アジア・中国・日本——

International Relations in Asia —China, Japan and Other Countries

東京都立大学助教授

岡部達味

OKABE Tatsumi, Tokyo Metropolitan University

日本、中国、その他のアジア諸国がそれぞれに直面する課題を検討し、それらの異った問題をかかえる国々の間にどのような関係が存在するか、どのような関係がありうるかを考えたい。

E アジア主義の功罪 ——アグラリアの発想と欧米流帝国主義の間——

Japan's Pan-Asianism Reappraised —Neither East Asian Agrarianism nor West European

Imperialism, but Somewhere In-Between

上智大学教授

三輪公忠

MIWA Kimitada, Sophia University

アジア主義と一口にいうことはできても、それを日本近代ナショナリズムの欧米流帝国主義段階と一元的に論ずることはできない。そこには多分に東アジアに個有な発想があるからである。それを東洋的アナキズムと呼ぶこともできよう。あるいは西洋近代へのアンティテーゼとすることも可能である。過去における侵略の事実の底から発掘しうるものの中には、インダストリアへの東洋の農耕社会からの反撃という今日的な評価もありうると思うのである。

▶テキスト 三輪公忠編「世界の中の日本」(総合講座・日本の社会文化史第7巻) 講談社 980円

◆ シンポジウム

アジアを考える

Some Reflections on Asia

ブリタ・ブアナ特派員 アリフィン・ベイ Arifin BEY, Correspondent of Berita Buana

オーストラリア大使館文化部長 A・J・ケントウエル A.J. KENTWELL, Embassy of Australia

上智大学教授 川田 侃 KAWATA Tadashi, Sophia University

東京外国語大学助教授 中嶋 嶺雄 NAKAJIMA Mineo, Tokyo University of Foreign Studies

◆ 運営委員

東京外国語大学助教授 中 嶋 嶺 雄 (委員長)

早稲田大学外事課長 山 代 昌 希

東京大学学生課長補佐 宮 川 清

京都大学留学生掛長 浦 上 要 三

津田塾大学助教授 江 尻 美 穂 子

◆ 募集要項

1. 募 集 人 員 60名 (アジア地域を主とした留学生30名、日本人学生30名)
2. 参 加 資 格 留学生の場合は、日本語を理解できる学部の高学年生もしくは大学院生 (研究生) であること。日本人学生は学部の高学年生で、英語を聞く力のあることが望ましい。(なおセミナーでは原則として日本語を使用するが、討論の場では必要に応じて英語などを使用することもある。)
3. 登 録 料 留学生 3,000 円、日本人学生 5,000 円 (参加経費の一部に充当し、その他の経費は主催者の負担とする。なお参加者には交通費の実費を支給する。)
4. 申 込 方 法 所定の申込書に前納分 2,000 円を添え、締切日まで必着するように大学セミナー・ハウス企画室宛に現金書留で郵送のこと。(留学生の場合はなるべく大学の留学生担当課を通じて申し込むこと。) 参加決定の選にもれた場合は前納分の登録料は返還する。
5. 申 込 締 切 昭和49年12月2日 (月)。急ぎの場合は申込書送付先に電話連絡のこと。
6. 決 定 通 知 参加者は応募理由を考慮のうえ、特定の大学・専攻および国籍などに片寄らないよう考慮し、決定通知は12月3日 (火) より郵送する。
7. 申 込 書 送 付 先 東京都八王子市下柚木1987 (〒192-03)
大学セミナー・ハウス企画室 電話 0426 (76) 8511

